

平成31年度「就労支援部会」中間報告について

1 開催日時等

第29回就労支援部会	5月23日	
第30回就労支援部会	8月23日	
第31回就労支援部会	8月30日	「障害者雇用セミナー」
第32回就労支援部会	9月17日	
第33回就労支援部会	10月4日	「就労移行支援事業所バスツアー」

2 部会員名簿

団体等名	氏名
特定非営利活動法人 パンドラの会	坂口 伊久磨 (部会長)
特定非営利活動法人 くるくる	鈴木 佳奈
刈谷市障害者支援センター	相澤 道子
西三河南部西障害者就業・生活支援センター	加藤 正昭
刈谷商工会議所	河内 利夫
刈谷公共職業安定所	福島 洋子
愛知県立安城特別支援学校	説田 智洋
商工業振興課	二井 久枝

3 報告事項

(1) 第29回就労支援部会 (5月23日開催)

ア 障害者雇用セミナーの開催について

今年度の雇用セミナーは、障害者の雇用率・定着率の上昇を目指し、障害者が就労先で長く働くことができる環境をつくるために、参加企業と就労支援機関がつながりを持つことを目的として開催する。昨年度から引き続き、精神障害者・発達障害者の雇用に着目した内容とし、開催日時、開催内容、事例発表の企業選定、広報手段等について、部会で検討を行った。

- (ア) 就労移行支援事業所で、精神障害者・発達障害者がどのような訓練を受けて就職し、就職後にどのような定着支援を受けているのかについて事例を踏まえて説明することで、障害者雇用に対する理解を深める。
- (イ) 精神障害者・発達障害者を雇用している企業により、障害者を雇用する上で行っている取り組みや工夫について、就労支援機関との連携の様子も交えて紹介する。
- (ウ) グループ毎に設定したテーマに沿って、現在各々の企業が抱えている課題等について話し合うグループトークを行う。部会員はグループリーダーとなり、解決策の助言や課題に合った支援等の紹介をし、併せて就労支援機関と参加企業の繋がりをつくる機会とする。

イ 就労移行支援事業所バスツアーの開催について

企業に就労支援事業所における一般就労に向けての訓練を知ってもらい、障害者が就労しやすい職場環境づくりの参考にってもらうことや、就労支援機関と企業のつながりを創出することを目的として、昨年度に引き続き、事業所バスツアーを開催する。部会において、開催日時、訪問先事業所の選定、広報手段など具体的な内容を検討した。

- (ア) 市内3か所の就労移行事業所を訪問し、バス内及び事業所で各々の事業所の支援員により、事業所の特徴、障害者への関わり方、企業と支援機関の連携の取り方、訓練内容について説明し、参加企業には就労移行事業所の役割等への理解を深めてもらう。
- (イ) 就労移行事業所では、個々の障害特性に応じた訓練や対応が行われているため、障害者が就労しやすい職場環境づくりの参考にもらう、また、企業と支援機関の繋がりをつくる機会としたい。

(2) 第31回就労支援部会「障害者雇用セミナー」(8月30日開催)

ア セミナー内容

内 容	発表者
就労支援機関 の事例紹介	【発表者】 就労移行支援事業所 S & J パンドラ 坂口 伊久磨 氏
企業の事例紹介 パネルディスカッション	【事例紹介・パネラー】 エヌティーテクノ株式会社 江口 禎 氏 スギスマイル株式会社 鬼頭 勲 氏 ハローワーク刈谷 岡平 博 氏 【司会】 坂口 伊久磨 氏
グループトーク	【テーマ】 1. 精神・発達障害への理解 2. 障害者の支援機関との連携の仕方 3. 求人・募集 4. 業務の切り出し方 5. 社員が精神的な病気になった時の配慮、待遇

イ 参加企業及び参加者数

23社30名 平成30年度実績：参加企業数15社、参加者数19名
平成29年度実績：参加企業数13社、参加者数24名
平成28年度実績：参加企業数21社、参加者数29名

(3) 第32回就労支援部会 (9月17日開催)

ア 雇用セミナーの振り返り

開催時期や広報手段について工夫し、昨年度より参加企業が8社増加した。
アンケートでは、セミナー全体を通じた内容の理解度、障害者雇用に向けた
有益性に対する評価の平均が、5段階評価のうちともに4.7と高かった。

企業の事例紹介では、就労移行支援機関と連携した雇用が就労定着につな
がっている好事例の報告を通じて、就労移行支援機関の担う役割等について
知ってもらうことができた。

また、グループトークは、各々の企業が抱えている課題を共有し、意見交換を通じて知見を広げることと、就労支援機関と参加企業の繋がりをつくる狙いで実施したが、「他社の取り組みが参考になった」という感想が多く、各々の企業では、日頃、課題解決に向けて話し合う場が乏しい状況も伺うことができた。

《アンケート自由記述》

- これまで社内での考え方のみで働きかけを行ってきたが、他社の状況や意見を聞くことができて、大変役に立った。
- 支援員や他社の方との交流があり、とても良いセミナーだと感じている。
- 上手くいかない事例を聞く機会が多かったが、良い事例を聞くことができて良かった。
- 精神・発達障害に対する対応について、有用な意見を聞くことができた。
- 実際に雇用している会社の実際の話を知ることができた。

イ 参加企業へのセミナー後アプローチについて

雇用セミナー後の参加企業へのアプローチは、開催目的の一つである企業と支援機関の繋がりをつくる取り組みとする。グループトークやアンケートで出された質問に回答しながら、障害者雇用に関する悩み等の再確認を行う。アプローチの進捗状況は再度部会に持ち寄り、以降の部会で共有する。

(4) 第33回就労支援部会「就労移行支援事業所バスツアー」(10月4日開催)

ア バスツアー内容

見学先	説明者
S & J パンドラ	所長 坂口 伊久磨
アンダンティーノ	所長 相澤 道子
就労支援センターくるくる	鈴木 佳奈/坂井 勝斗

イ 参加企業及び参加者数

- 11社15名 平成30年度実績：参加企業数9社、参加者数10名
- 平成29年度実績：参加企業数10社、参加者数13名

ウ アンケート結果

別紙のとおり

《アンケート自由記述》

- 他の参加企業や事業所の支援員と情報交換する時間を設定してほしい。
- このような機会を必要とする企業は多いので、回数を増やしてほしい。
- 視野が広がる良い機会となった。事業所が訓練として取り入れている公文式は、障害者雇用に効果的な取り組みと感じ、職場でも応用したい。

4 障害者差別解消法に関する課題の有無について

特になし